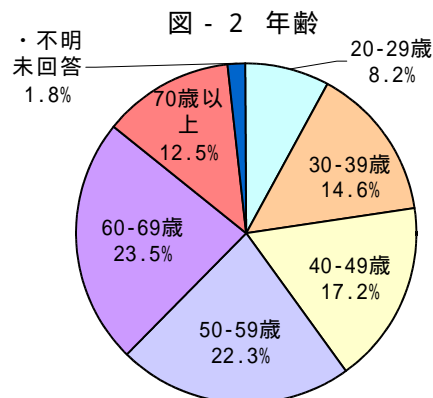
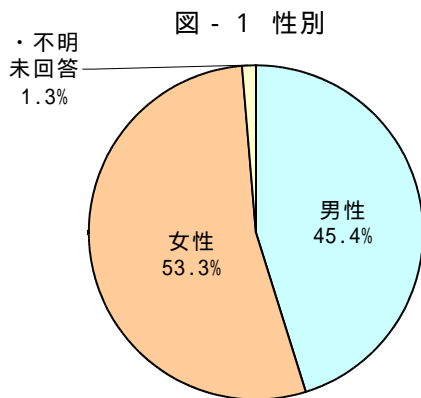


# 「ともに生きる住みよい町づくりアンケート」

## 1. 回答いただいた方の性別と年齢

本アンケートには全部で795人の方から回答をいただきました。回収率は約4割(39.8%)です。郵送法によるアンケートの場合、回収率は30%前後と言われておりますので、多くの方にご協力いただいたことがわかります。「日本社会の国際化と住みよい町づくり」といったテーマへの関心の高さがうかがえます。

図-1、2に示すように、性別では「女性」がやや多く53.3%、年齢層では「20～39歳」が22.8%、「40～59歳」が39.5%、「60～85歳」が36.0%と、年齢の高い方からの回答が多くなっています。

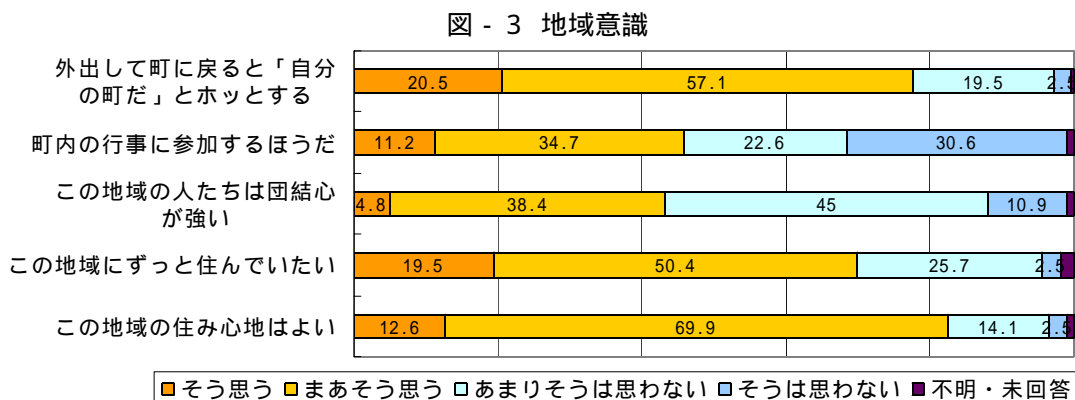


## 2. 住んでいる地域について

次に、現在お住まいの地域についての意識をお尋ねしました(図-3)。

「外出して自分の住んでいる町に帰ってきたときにほっとする」と答えた人は、「そう思う」「まあそう思う」という回答を合わせると77.6%にも達します。その一方で、「町内の行事に自分は参加する方だ」、「この地域の人たちは団結心が強い」と思っている人は、「そう思う」「まあそう思う」を合わせると、それぞれ43.2%、45.9%で、地域への参加の度合いは、あまり高くはないようです。

ただし、約7割の人は「この地域にずっと住んでいたい」と思っており、82.5%もの人が「住み心地はよい」と答えておられます。



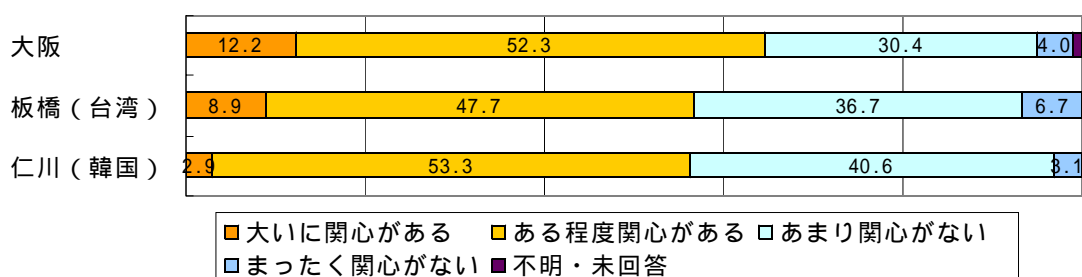
### 3. 外国人労働者についての意識

さて、日本では 1980 年代後半以降、外国人労働者と呼ばれる人々をはじめ外国籍住民の方々が増えてきました。こうした「人の国際化」が進む中、私たちは、日本人も外国人も、お互いに違いを認めあい尊重しあいながら、一緒に地域づくりをしてゆくことが必要だと考えています。どうすればそのような社会をつくることができるのでしょうか。それを考えるための基礎資料として、外国人についての意識をお尋ねしました。

#### (1) 外国人労働者問題についての関心

まず、「外国人労働者の問題について関心があるかどうか」を尋ねた結果を図 - 4 に示しました。なお、参考までに板橋市（台湾）と仁川市（韓国）で同じ質問文を用いて行ったアンケート調査の結果も載せました。（板橋市は台北の近郊、仁川市は韓国のソウルの近郊に位置する都市で、近年、外国人の数が増えているところです。）

図 - 4 「外国人労働者問題」に関心があるか



この図から、大阪市では他の都市にくらべて外国人労働者問題に「関心がある」人が多いことがわかります。図には示しておりませんが、同じ質問文を用いて行った北九州市での調査でも「関心がある」という人の比率は高く、「大いに」「ある程度」をあわせると 69.6 %となりました。日本では、韓国や台湾にくらべ、この問題についての関心は高いようです。

なぜでしょうか。もしかしたら少子高齢化による看護・介護職不足への不安感の高さが背後にあるのかもしれません。韓国、台湾にくらべて日本の高齢化率は高いことはよく知られています。そのためか、図 - 5 に示すように、大阪市では他の都市にくらべて「看護職や介護職に従事する外国人が増えること」を「好ましい」と考える人の比率が高いことがわかります。そして、「好ましい」と思っている人ほど「関心がある」という人の比率も高い傾向が見られるのです（図 - 6）。もちろん、他の要因の影響も考えられますので、今後、さらに分析を続けてゆきたいと思います。

図 - 5 看護・介護職の外国人が増えること

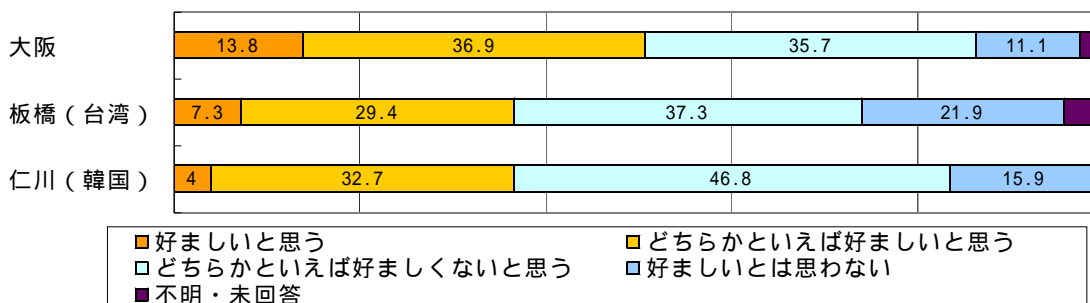
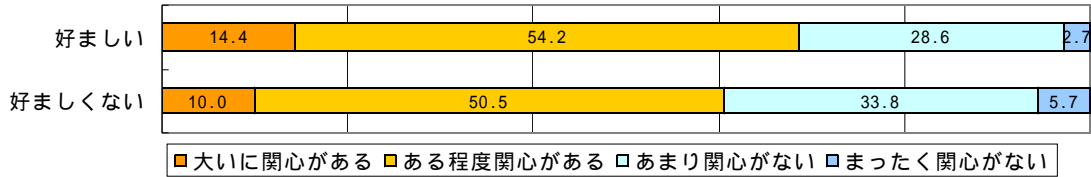


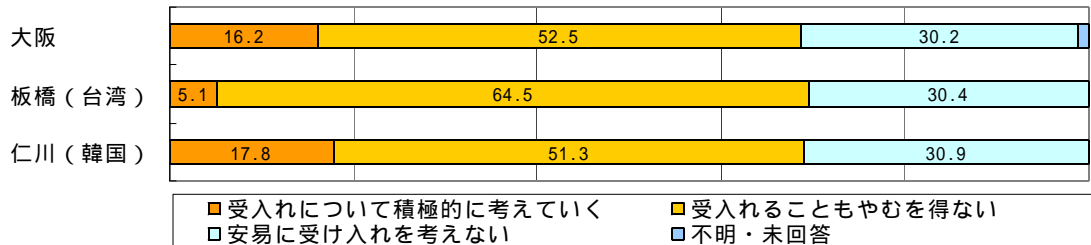
図 - 6 看護・介護職の外国人労働者の増加×外国人労働者問題への関心



(2) 外国人労働者の受け入れについて

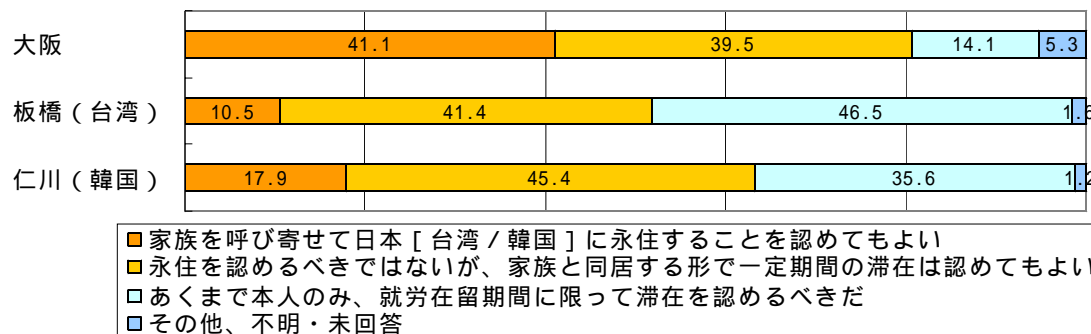
次に、外国人労働者の受け入れについての意識を示したのが図 - 7 です。どの都市でも「やむを得ない」という「消極的な受け入れ」姿勢を示す人が多いことがわかります。ただし、どの都市でも 30 % 近くの人には「安易に受け入れを考えない」方がよいと思っ

図 - 7 外国人労働者の受け入れについて



また「外国人労働者が家族を呼び寄せて永住したいという希望をもつとしたら、あなたはどうか考えますか」という問いについては、図 - 8 に示すように、各都市によって大きく意見が分

図 - 8 外国人労働者の家族呼びよせと定住について



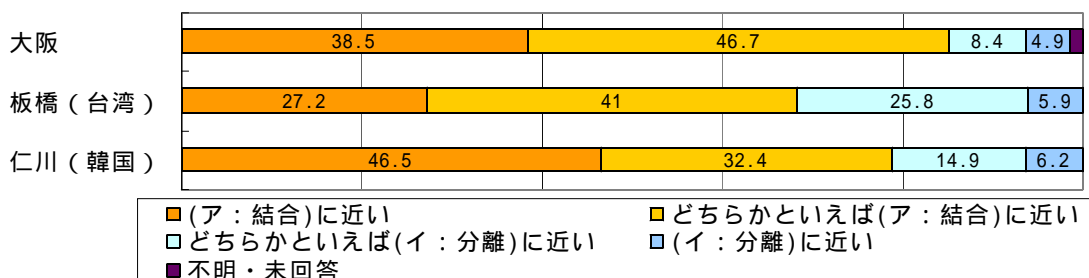
(3) 「外国人とのつきあい」と「外国人が自国の文化を保持すること」への意識

さらに、「外国人とのつきあい」について次のように尋ねた結果を図 - 9 に示しました。

(ア) 外国人とは、習慣や考え方の違いからくるトラブルも時にはあるが、それにくじ

- けず、積極的につきあってゆくのがよいと思う（結合志向）
- (イ) なるべく日本人〔台湾住民、韓国人〕は日本人〔台湾住民、韓国人〕どうし、外国人は同じ出身国や民族の人どうしでつきあってゆくのが、お互いにとってよいことだと思う（分離志向）

図 - 9 外国人とのつきあいについて

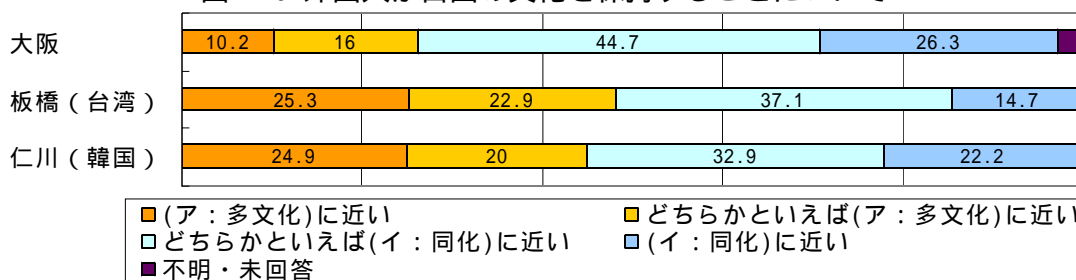


どの都市でも「結合志向」が強いのですが、特に大阪と仁川ではそれが強く見られることがわかります。先に述べたように、私たちの研究グループでは「日本人と外国人とがお互いに違いを認めあい尊重しあいながら、一緒に地域づくりをしてゆくこと」が必要だと考えています。その意味では、「一緒に地域づくりをしてゆくこと」につながるとされる「結合志向」が、大阪で強く見られることは望ましいことです。ただし、それは「日本人と外国人とがお互いに違いを認めあい尊重しあいながら」という条件のもとでのことだと思います。

では、大阪市民は「外国人が自国の文化を保持すること」について、どのような意識を持っているのでしょうか。それを下のような質問文で尋ねた結果が図 - 10 です。

- (ア) 日本〔台湾、韓国〕に住む外国人は、日本〔台湾、韓国〕でも母国の文化を大切に守ってゆくべきだ（多文化主義）
- (イ) 外国人であっても日本〔台湾、韓国〕で生活する以上、日本〔台湾、韓国〕の文化を受け入れるべきだ（同化主義）

図 - 10 外国人が自国の文化を保持することについて



外国人との「結合志向」が相対的に強い大阪ですが、同時に「外国人であっても日本で生活する以上、日本の文化を受け入れるべきだ」といった「同化志向」も強いことがわかります。

これらの結果を概観すると、大阪市では、他の都市にくらべて、外国人労働者問題に対する関心や外国人労働者の受け入を容認する度合いが比較的高いようです。外国人との「結合志向」も強いのですが、そうした外国人の受け入れやつきあいが「同化」を強要する形でなされないような配慮が必要とされるのではないのでしょうか。

私たちは、今後さらに各都市間の意識の「違い」の背後にあるものを明らかにするとともに、多文化共生社会づくりの条件について考えてゆきたいと思っています。